

編集発行人・吉田隆司

毎月1回、1日発行  
定価1部100円/1年1000円(送共)  
郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3  
TEL. 03-3814-3591  
FAX. 03-3814-3590

Website: <http://www.rizhong.org/>  
E-mail: [info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org)



2015.5.19 ~ 20  
本科日本語科合同合宿

## A先生の新語コーナー



sìge quánmiàn

“四个全面”

4つの全面。①小康社会(ややゆとりのある社会)の全面的実現、②改革の全面的深化、③法に基づく国家統治の全面的推進、④全面的で厳格な党管理を目指す。習近平総書記が昨年12月に江蘇省を視察した際に提起したものの、この4つの方針はすでに個々に出されていたが、「4つの全面」という言葉で体系的にまとめられたのはこれが初めて。中国の今後の発展を導く党中央の戦略的思想を体現したものと位置づけられている。

(A)

(2015年5月号より)

その中で尖閣問題です。まず世界的に大きな状況を押さえておきます。外務省による2013年の調査で、アメリカ人の有識者に「アジアにおける、アメリカのパートナーはどこか」と聞くと、最も多い答えは中国なのです。アメリカ人、特に知識層は基本的に、中国を見ているということです。オバマ大統領やケリー国務長官ら中国に対して融和的な指導者に対して「パンダハグガー (Panda hugger)」、あいつはパンダを抱く男だという言葉があります。日本語で言えば媚中派ですね。こういう言い方をする人たちは中国に反感を持っているわけですが、一方で少なくともアメリカの有識者に聞けば2008年頃から4割以上の方がアジアにおけるアメリカのパートナーは中国だと見ています。日本はパートナーと見られていないのか、もしくは安全牌と見られているのか、よく分かりませんが…。こうした中昨年11月に、日中首脳会談が行われ、私も北京に行きました。4つの合意等が直前に配布されるなど、バタバタした中で北京に行ってきました。戦略的互惠関係を再確認する、など両国政府は成果を強調していますが、私は日中首脳会談の最大の議題と言うのは、「侵犯」と「参拝」、つまり尖閣への領海侵犯、それから靖国参拝だと見ています。この二つは、もちろん首脳会談では触れられなかったわけです。触れないのはいい。ただし、私は、安倍総理は非常に大きなチャンスを逃したと考えて

いるのです。もちろん、靖国参拝と言うのは信仰の問題ですから、個人の自由だと言われればその通りです。私自身は、総理大臣の靖国神社の参拝というのは、政教分離の観点から非常に大きな問題をはらんでいると考えていますが、そうじゃないと言う人もいます。参拝は信仰なのだから総理が行けばよいのだと言う人もいます。ただ総理大臣は同時に大きな国益を考えなくてはいけませんから、時として国益に合えば自分の個人的な信条を曲げることもあるという点で、我々一般人とは全く違うと私は考えます。

日中首脳会談が行われる前後の10日ほどは、尖閣の日本の領海には中国の公船は一隻も入っていません。海上保安庁の人間に聞きましたが、国有化が2012年。それから2013年、2014年初めまでは尖閣の領海に中国の船が入ってくると、くねくねと蛇行したり、ずっと進んで来てから、じっと30分くらい留まったりとわざと示威行動をしていたそうなのです。ところが、だいたい昨年8月、9月頃から入り方が変わってきたというのです。それは領海に入ってきてずっと通っていただけ、或いは領海線すれすれのところを通過するだけになったそうです。個人の家に例えましょう。子供が、道路で野球をやっているボールが他人の家に入っちゃった。子供が庭にこっそり入ってきて、ボールを取りに来ると、黒づくめの大人が入ってきて、じいーっとそこに留まっているのでは全く違います。

ということは尖閣についても中国側は日中首脳会談の雰囲気づくりに向けて気を遣っていたということでしょうか。首脳会談後10日ぐらい船が入って来ず、ああこれは良かったなと思ったのです。つまり、安倍総理が、靖国参拝を表明することなしに断念する、中国は尖閣への公船の領海侵入を、言及することなしに諦める。こういう合意が、暗黙のうちに出来ているとしたら、これは72年の尖閣棚上げ以上の大変な合意です。もしそうだとしたら、安倍総理は歴史に名を残す宰相になると思いました。私は10日ぐらいその幻想を抱いていたのですが、結局その後、中国は入ってきましたよ。1回。でもそれはちょうど100回目だったのです。私は、中国語では、99は「久久」で永遠だから止めておけば良いと思っていたのですが、100はキリのいい数字だから、100回入ってきて終わるのだったら、これもこれで良しと。(首脳会談が)終わって、1回も入ってこないというのは何だから、1回くらいは(良しとして、しかたないかな)とっていました。しかしその後もずっと入ってきて、12月も1月も大体、一ケタですけれども、8回とか9回とか入ってきています。2月も入ってきています。安倍総理が、純粹に靖国と尖閣というのは政治的なバーゲニング、道具として考えているとしましょう。あくまでも仮定として。さて、安倍さんは靖国に参拝できるのか?安倍総理は靖国にはもう行けませんよ。昨年12月26日の安倍政権発足2周年や新年にも行きませんでした。4月には靖国神社の例大祭がありますが、行けません。なぜって5月のGWにアメリカに行きますから。以前安倍総理が靖国参拝をした時に、中韓が反発するのは想定内でした。安倍さんから見ればそれは仕方ないと。ですがアメリカがああ時、「失望したdisappointed」というのはやはり、日本の政権にとっては大きな想定外でした。今度も4月の例大祭に行ったとしたら、5月のGWの会談で、まずオバマに靖国の説明からしなくてはなりません。そんなことはアメリカさまに対して「やれるものならやってみろ」と私は思いますよ。「そんなに靖国に行きたいのなら。中国ではなくアメリカに盾ついてみろ」と思いますが、安倍さんは結局は靖国に行けないでしょうね。彼は8月15日の終戦記念日の参拝論者ではなく、例大祭の参拝論者ですから。それで今年の9月になれば自民党の

総裁選が何日に設定されるかにもよりますけれども、その後、国際会議目白押しですから、だから結局彼は行けないのです。あくまでも政治的カードとして考えた時に、靖国という大きなカードが折角あって、それで、個人の信念か信仰かそれを曲げれば、尖閣という日本固有の領土をきちんと守ることが出来るかもしれない千載一遇のチャンスで、彼は逃したのです。これは中曽根内閣の時に、中曽根総理は靖国参拝を諦めましたが、当時は何故だかよく分からなかったのですが、その後彼は自伝で、「私が靖国神社参拝をやめたのは、我国の内外の情勢を恻然に分析した上で決断したことです。加えてもう一つの決定要因としてあえて記すなら、胡耀邦が私の靖国参拝で弾劾辞職させられる危機を感じたこともあげられます」と語っています。胡耀邦は、結局は失脚しますが、中曽根に比べたら安倍の断念は、はるかに大きなことじゃないですか。もし断念したら。日本固有の領土を守ることができるのですから。このチャンス逃したことが、私は残念で仕方がありません。

中国は、尖閣を狙っているでしょう。50年、100年かけても自分のものにしようと思っています。これは、論を待たない。日本からすれば受け入れがたいことです。第一列島線、第二列島線というのを中国は、勝手に引いています。第一列島線というのは、日本列島から沖縄、そして台湾よりちょっと東ですけれども、この線が、なぜ死活的に重要かという、地図を90度傾けて東を頭にしてみると分かるのです。中国の頭は、鉄のヘルメットをかぶっているようなもので、頭はこれ以上伸びることができないのです。ですが、例えばこの尖閣さえ開けば、あとは抜けていって、太平洋にすぐに出られます。だから尖閣がどうしても欲しいのです。尖閣は、今までいろいろな問題がありました。特にこの2012年当時の東京都知事がアメリカのヘリテージ財団で、東京都による都有化を宣言して、大混乱になりました。その後、尖閣棚上げがあったかなかったかという議論が出て来ました。今はもう誰も言わなくなりましたが、首脳間、国家と国家の間で合意があったのかというのは非常に重要なことです。当時の日中首脳会談の外務省の公文書等を見ると、田中角栄が尖閣について持ち出したけれど、周恩来が、それを言い出したら国交正常化は出来ないということで、

終わったことになっていますが、しかし歴史を見れば結局棚上げはあった。2013年5月頃でしょうか、野中広務元官房長官が北京を訪問して中国共産党の劉雲山常務委員に会います。その時に尖閣棚上げはあったという話を私は田中角栄首相から直接聞いたと野中氏が劉雲山に伝えました。彼はその翌日から日本国内で売国奴と呼ばれたのです、帰国した際に関西空港で記者に「撤回する気はないのですか」と問われて、野中氏は「政治家が命を懸けて言った言葉をなぜ撤回する必要があるのか」と言って、空港から出て行きました。命を懸けてと言うのは、さすが野中氏らしい言い回しだなと私は思いましたが、その野中氏に、しばらくして直接その話を聞きました。野中は直接、角栄に、なぜ外務省の応答要領には入っていない尖閣の話を持ち出したのかと聞いたら、角栄は、あのときは賠償の話も台湾の話も話がとんとん拍子に進んだ、だから、これならもう一つの問題である尖閣もこのまま言ってしまえば解決できるのではないかと思って、周恩来に言ったと答えたそうです。周恩来もさすがにそこまではダメだと怒ったと田中元首相が野中氏に言ったわけなのです。つまり現実に棚上げがあったということです。それを某新聞は社説で1980年代に、尖閣問題棚上げを肯定的に認めていたにも関わらず、今になって棚上げは、なかったと言っているのがおかしい。

日本というのは、過去の検証をしませんよね。いまだに尖閣の棚上げはなかったと思っている人が多いのもそのためです。少しニュースをかじった人に聞いても「なかったってことになっているじゃないか」と、政治部の記者でさえも答える人がいます。その後で検証しないという態度が、怖いですよ。

尖閣というのは私が先ほど言った、日本国内の「periphery」辺境です。しかし、それが日中間の大きな問題になっています。それから棚上げの問題についても、科学的ではなく、きちんと立証していかに、ただその日その日で流れて行ってしまう怖さ、その結果として人間というのは偏見が出来るのですが、そこが非常に怖い。

昭和天皇が独白録の中で言っているのは、なぜ戦争に負けたかという問いの答えとして、彼は4つ掲げているのですけれども、そのうちの3つ目が、「精神に重きを置き科学的ではなかった」と

いうことです。つまり精神ばかりで、科学的でない結果、あの戦争が起きて、そして数百万の日本人が死んだ。アジア全体では、数千万の人々が亡くなった、殺されたということになりますから、みんなできるだけ科学的になろうよということです。特に日中関係というのは、どうしても非科学的、感情的になることが非常に多いですから、そうではなく、日本と中国の間をできるだけ科学的に考えていこうというのが、私がいつも申し上げていることです。

「爆買」の話をししましょう。中国人が香港でもブランドショップの前で50メートルも100メートルも行列したり、オムツを買い占めたりしています。さらにカジノでもそうです。マカオのGDPが最高に上がった時は、30%とかいきなり上がるわけです。GDPがですよ。日本では今1%、2%上がったと騒いでいる時にです。もちろん人口が違いますから、すべて日本に当てはまるわけではないのですが、そのほとんどが中国からのカジノ客です。2014年とか2015年はいきなり下がるのです。なぜかと言えば習近平の反腐败政策で、腐敗官僚がお金を持たなくなり、カジノが出来なくなったからドンと下がってしまう。その話をちょっと覚えておいてください。

私が香港の学生デモで取材した時、治安に関していえばまったく安心でした。中国の反日デモに比べれば非常に秩序立っていました。デモなのにトイレにきちんと並んだりしている。それも男子学生が。それを見て香港人はレベルが高いと感じました。何を香港の学生デモで言いたいかと言えば、雨傘革命、雨傘運動と言われて、香港の行政長官の選挙のやり方に対して、不満が高まり、学生が道路を封鎖するなどしたことが一連の経緯ですが、実際の根底にあるものはそうではありません。中国、中国大陸に対する不満です。オムツを買い占める、ルイ・ヴィトンの前で行列を作る。そういうことに対する非常に強い不満が溜まり、それが選挙のやり方をいわれた時に一挙に噴き出した訳です。この時香港内は親中派と反中派の真っ二つに割れました。親中派と言っても、中国、大陸が好きなわけではなく、大陸と商売をしている人たちです。お金を儲けるためには、これは大陸と上手く付き合っていないと仕方ないのだということで付き合っていた人々です。香港の雨傘運

動は、中国に対する不満や、中国とどう付き合うかと言うことが根源の学生デモでした。昨年春の台湾の立法議会が学生たちに占拠された、ひまわり革命もそうですね。結局、中国に対する強い不満があって、その中で国民党の馬英九総統が貿易サービス協定を締結すると言って、不満が噴出したわけです。ということは、さて日本と中国。今中国については旧正月の「爆買」で好意的に報じられています。この間も私が聞いたら、福建省から5組の夫婦が来て、3日間で三千万円使った。三千万円って一組、六百万ですよ。百貨店をハシゴして、本当に五十万円、百万円の物をぼんと買っていくのですよね。特に買っていくのは宝石。これは香港でも同じです。宝石は中国の北京や、上海でも決して日本や香港と比較して高価ではありません。しかし彼らは国内で買う物は偽物だと思っているのです。それが北京にある「新光三越」三越系のデパートであっても、偽物だと思っているのです。日本橋の三越でない本物だとは思わないのです。日本人も海外にブランドを漁りに行きましたが、あれは皆安いからですね。日本の中で買うと偽物だからということはありません。当時日本がバブルでどんなに儲かっている、ちょっと行って百万、二百万など、なかなか買わなかったと思います。そういうことを聞いた記憶はありません。今は（中国に対して）目立った批判はありません。この旧正月4日間くらいは爆買で、百貨店の売り上げは、去年の春節の“初一”元日だけで三倍になりました。今は、みなそれで「やった、やった」「よかった、よかった」と言っています。報道もそうなっています。私はここで断言する。来週になったら、逆転しますから。週刊誌、夕刊紙がめちゃくちゃなことを書きますよ。つまりこんな百貨店で、中国人がこんな酷い買い方をしたとか、必ずそういうふうに来週はなります。恐らくそっちの方が残念ながら、多くの日本人にとっては、耳触りが良いのです。だってそうでしょう。みんな買い占められて、今だってこれは統計がないから分かりませんが、六本木とか麻布のマンションは中国人が沢山買っています。そういうことも考えると、それは面白くないわけです。となると、どういうことになるかという、抗議活動が起きるまでの香港とか台湾の姿というのは、実は日本の今の姿だということなのです。

日本人は大人しいから、今後、香港や台湾のようになるかは分かりません。しかし、ヘイトスピーチなんかは、香港の雨傘革命のように、学生たちが秩序立っていて、一生懸命に説明してくれている姿ではない、もっとおぞましい姿です。その意味で、私はああいうものが、噴出して日本の中の反中国的な、中国嫌いの運動になることを懸念しています。特にカジノが出来ればすぐにそうなるでしょう。カジノが出来れば最大の客は必ず中国人になります。外国人と付き合うのに非常に奥手な日本人が、そのような急激な付き合い方、垣塙の中に入って行っているのだろうかというのが、私の懸念です。しかも日本では、報道の自由が実際には、あるか分からない。香港の新聞などは香港政府寄り、中国共産党寄り、民主派寄りつまり学生デモ寄りとか旗幟鮮明なのに、日本の新聞ではそれがよく分かりません。私は一応専門家なので分かりますが、一般の人が読んだらどちらかよく分からない、あからさまな対立軸がないということも、私は非常に心配しています。少し話題を変えましょう。世界のGDPが今から2000年前どういう状況だったか、どうやって測ったのかとも思いますが、推計があります。とにかく、圧倒的なシェアは中国なのです。やはり、中国とインド。それで中国はその後ずっとトップで、当然のことながら19世紀から、下がってきましたが、ここ（西暦2000年前後）から上がってくる。日本というのは実はシェアがあまり高くない。バブルといわれる一時期非常に大きなシェアを占めたけれども大したことはない。さて、中国は結局社会主義ですからこれからはあまり発展しないだろうと見るのか、それとも習近平は清代を目指して、「中国の夢」を掲げていると言われているように、もう一度17世紀、18世紀を目指すのだとすれば、中国はこれから二、三百年かけて、もう一度世界帝国に戻って行くのだろうかと思えるかは人によって分かれるところだと思います。もちろん、私が生きている間に見られるかどうか分かりません。ただ、今（中国が）持っている人口は大きいから、全体のGDPでいけば日本を超えるというのは、当然です。ただ日本は一人当たりのGDP、経済力をどんどんつけていけば、決して中国に引けを取ることはないでしょう。その過程で、あるべき姿というのはヘイトスピーチなどというものでは

ありません。

私は、中国の古典を読むようにしているのですが、子貢が論語の中で、「一言でもってこれを一生行うべきことというのは何ですか。」と孔子に聞いたら、孔子が答えたのは「其恕乎」「其れ恕か」と答えるんですね。「恕」というのは、「寛恕」という言葉或いは「忠恕」という言葉がありますね。小泉元首相が盧溝橋、抗日記念館で書いた言葉「忠恕」。「恕」というのは、思いやりという意味です。最後はこの「恕」でしょうね。ほかにも、孔子が言っているのは、「己所不欲、勿施于人」「己の欲せざるところ、人に施すなかれ」。これが根底にあって、その中で互いの国の関係を成り立たせていく。もっと卑近な言葉で言えば、なんとか折り合いをつけていくということだと思います。中国語でいうと“湊合”というんですね、そのようにやって行くしかないのです。近くにて摩擦があるのは仕方がないけれども、それ

を何とか折り合いをつけていくのが、これからの日中関係のあり方、お互いに己の欲せざる所については、お互いにやりあうことはしないということが私の日中関係に対する、今も昔も変わらず、恐らくここで学んだ際に植えつけられて、そして今も変わらぬ私の信念であります。



武田一顕氏  
TBSラジオ&  
コミュニケーションズ編成  
局制作センター所属の放送  
記者。早稲田  
大学第一文学

部中国文学専修。大学在学中に香港中文大学に一年留学。日中学院別科においても中国語の研鑽を積んだ。「国会王子」のニックネームの通り、国会担当記者として活躍すると同時に、中国関係の取材にも力を入れている。担当番組多数。

### 日本語科卒業生及び日本語科旧教職員の皆様

お久しぶりです。お元気ですか？

今年、日本語科は創設30周年を迎えました。

これを記念して同窓会を開きます。

みなさんお誘い合わせになり、ぜひ、いらっしゃってください。

日時：7月12日(日) 11時受付開始 11:30～13:30

会場：日中友好会館地下1階「豫園」

会費：4,000円(幼児、小中学生は無料)

ご出席の方は [info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org) まで、ご連絡ください。

同学で連絡のつく方がいらっしゃったら、

お知らせいただければと思います。

また13:30以降、学校を開けて

しばらくお話できればと予定しております。

ピンゴ大会も予定しておりますので

お子さま、ご家族、ごいっしょにいらしてください。

来日したばかりのころを振り返り

懐かしい顔に会える機会にしたいと思います。

今回ご都合が合わない方も、今後またお会いしたい

と思いますので、ご欠席の旨ご連絡ください。

ご連絡、お待ちしております。

日中学院 日本語科 松本(旧姓横山)朝子、原口大介

### 日中学院倉石賞候補の推薦をお願いします！

2008年の第18回を最後に、日中学院倉石賞の募集をしばらく停止しておりましたが、昨年倉石先生没後40年を記念し「倉石賞記念連続講演会」を行いました。そして、今年新たに倉石賞を募集する事となりました。

戦後70年の今日、日中関係は歴史認識等の多くの問題を抱えています。このような状況下、日中学院では日中学院倉石賞授賞を再開し「日中友好の架け橋」となる人材育成に資することは、これまでも増して大いに意義あることと考え、多くの皆様に2015年度(第19回)日中学院倉石賞受賞候補の推薦をお願い致します。

**対象：**○民間中国語教育の普及・向上および日中文化交流などに貢献した個人・団体。  
○中国語の教育、研究、翻訳などに関する業績・著書・論文。(在日本、中国を問いません)

**受付：**2015年7月1日(水)～9月30日(水)

**発表：**12月初旬

詳しい要項は下記までお問い合わせ下さい。

日中学院

Tel:03-3814-3591/e-mail:[info@rizhong.org](mailto:info@rizhong.org)

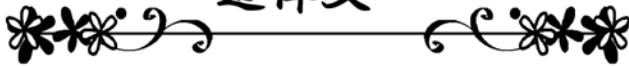
5月16日に、4月9日に逝去された黄晓惠先生のお別れ会が日中学院で行われました。

黄晓惠先生は、本科研究科や別科講座などを10年以上もご担当されていたこともあり、当日は、卒業生等50名以上という多くの方にご参加頂きました。

お別れ会では黄晓惠先生の授業でのご様子や思い出話を語り合い、在りし日の先生のお姿をしのびました。また、ご子息にお越し頂き、母としてのお姿などをお伺いすることが出来ました。

ここでは、長きに渡り、黄晓惠先生の別科授業に受講されていた、成行様より文章をお寄せいただきましたのでご紹介します。

## 追悼文



### 献给尊敬的黄老师：

黄老师，我没想到您走得这么快。

去年老师检查后怀疑胰腺癌找医院的时候，不巧我当时不在日本，不能给老师找到好的医院。这件事到现在还让我感到遗憾。

头一次上老师的课，是我55岁那年的7月初，已经11年多了。这11年算是很长的时间，但是我觉得真短。

当初，我上了一两年老师的课后，我觉得我的汉语没有太大的进步，当时老师这样安慰我说：“在日本学习汉语没有退步就是进步。”



在我57岁的那个春天，我开始在庆应高中教汉语，我把这件事告诉老师的时候，老师也很高兴鼓励我。如果没有上老师的课的话，我想我也不会去应聘高中老师。之后7年的汉语教师的经历，给我的人生增添了光彩。我真的感谢老师。

老师患了胰腺癌后，每次上课看起来都很辛苦。下课后，每次我们一起坐车，然后在秋叶原各自坐电车回家。在饭田桥到秋叶原这不太远的路程中，我们都是一路聊天。大概去年的11月，老师因为化疗的副作用很疲倦。在电车里，老师坐着，我在老师面前站着。我握着老师的双手说，黄老师，我的年纪虽然比您大几岁，但是您就是我真正的老师。那时，老师虽然很疲倦但是笑着回答我：“谢谢成行！”

我永远不会忘记老师那时候的笑脸。

我对老师的回忆实在太多了。我相信老师的灵魂还留在千叶县的家里或您深爱的孙子、孙女的旁边，一直守护着您心爱的亲人。

我不会忘记这么一位博学、爱学问、爱学生、爱祖国也爱日本人的黄老师。

黄老师，您是我真正的老师。

愿黄老师在天之灵安息！

2015年5月23日

成行正夫





## 故宮は大河ドラマ

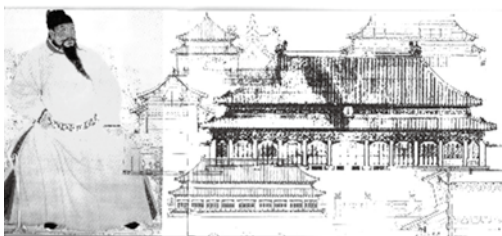
北京に行ったら一度は必ず訪れたいのが故宮。故宮は歴代の皇帝たちの住まいでたくさんの至宝がある所と思っているだけではつまりません。一番の醍醐味はその至宝たちに秘められた人間たちの壮大な歴史ドラマです。宝物の美しさは二の次かもしれません。

### DVD『故宮』全6巻

中国中央電視台・故宮博物院共同制作／日本語字幕つき  
音声：中国語／日本語吹替

この壮大な歴史ドキュメンタリーは1403年、明代の永楽帝から始まる。当時の首都は南京であったが、モンゴル族を防ぐ要衝であった北平を第2の都と定め、北平は北京と名を変える。幼いころから現地に慣れ親しんでいた永楽帝は大臣たちの反対を背に秘密裏に北京への遷都計画を練っていく・・・。

第1巻では故宮（紫禁城）の建設にも壮大なドラマがあること



を語っている。建築材として楠（くすのき）を求め、四川省、湖北省の山深い原生林で毒蛇、猛獣と闘いながらの危険な伐採は13年続いた。更に過酷なのは石材の採掘である。その運搬にあたっては厳寒の真冬に500メートルおきに井戸を掘って水を撒き、地面を凍結させて2万の労働者と1000頭のロバで引いて運ぶ。このように故宮は想像を超えた長いドラマから始まる。

### —西洋の至宝は時計から—

1601年イタリア人宣教師マテオリッチが中国に上陸した目的はキリスト教を布教すること。そのためには支配者である皇帝を儒教からキリスト教に改宗させるのが得策と考えたマテオリッチは、皇帝に会って教義を説くために西洋の先進技術の象徴といわれた最高芸術の時計を貢ぎ、皇帝の気を惹こうと考える。この作戦が成功し、彼は西洋人として初めて紫禁城への入城が許される・・・。



【1900年の紫禁城 午門の背面】

故宮にまつわるこうした人間たちの壮大な歴史は、至宝の美しさを超えた興味深いドラマであることをこのドキュメンタリーから感じ取ることができます。

### —新着図書—

(著者及び出版社省略)

- 『地球の歩き方』シリーズ (中国／大連・瀋陽・ハルビン／広州・アモイ・桂林・珠江デルタと華南地方／台北／チベット)
- 『台湾時刻表』
- 『動詞・形容詞から引く中国語補語 用例20000』
- 『講談社実用中日・日中辞典』
- 『中国環境汚染の政治経済学』
- 『永遠のピアノ 毛沢東の収容所からバッハの演奏家へ』
- 『中南海 知られざる中国の中枢』
- 『戯曲 駱駝祥子』ほか多数

### —寄贈—

- 徐揚様より DVD『追捕』
  - 百田弥栄子様 (著者) より『シルクロードをつなぐ昔話 中国のグリム童話』
  - 張泰雲様より『韓寒五年文集』上下巻／『雑的文』『他的国』ほか
  - 芳沢ひろ子様 (訳者) より『中国の伝統演劇』
  - 竹中憲一様 (発行者) より『大平学校の思い出』写真集
  - 匿名の皆様より『中国人日本留学史稿』
- DVD『帰来』(邦題：妻への家路)



ありがとうございます

# 7月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
			<b>1</b> ●本科1年朗読大会 ●日本語科31期受付開始	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>4</b> ●校友会総会/理事会
<b>5</b> ●1日集中講座 ●日本語能力試験	<b>6</b> ●日本語科定期試験(~10日) ●別科258期授業開始	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>9</b>	<b>10</b>	<b>11</b>
<b>12</b> ●日本語科同窓会	<b>13</b>	<b>14</b>	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>17</b>	<b>18</b>
<b>19</b>	<b>20</b> ●休日(海の日)	<b>21</b>	<b>22</b> ●日本語科個人面接	<b>23</b>	<b>24</b>	<b>25</b> ●本科定期試験(~31日) ●特別公開講座
<b>26</b>	<b>27</b>	<b>28</b>	<b>29</b>	<b>30</b>	<b>31</b> ●本科・日本語科1学期最終日	
●8月の日中学院 ・1日…本科・日本語科夏休み開始 ・2日…本科2年短期研修帰国			・4日…別科夏休み(~16日) 別科夏期集中講座(~8日) ・9日…閉門(~16日)		・17日…別科授業再開 ・25日…日本語科授業再開、避難訓練 ・29日…本科生のための公開講座	

## 「出張無料公開講座」のご案内

日中学院では、多くの方に中国語の授業を体験して頂くために、年間を通じて無料の公開講座を実施しております。通常は、お越し頂く形の授業のみ開講としておりましたが、この度派遣形式で同様の公開講座を実施する事となりました。より多くの皆様にご体験頂きたくご案内申し上げます。近年、来日する中国人観光客の増加に伴い、中国語学習の需要が高まっております。この機会に、是非ご検討下さい。

- 人数：最少実施人数5名以上
- 場所：受講希望者の希望する会場  
※有料会議室等を使用する場合は会場費の実費負担をお願いいたします。
- レベル：中国語初心者対象
- 時間：1レッスン 90～120分程度。
- 費用：無料（派遣講師交通費、プリント代不要）
- 実施日：お申し込みから1週間以降で実施
- お申込み方法：電話又はメールにてお申込み下さい。  
※先着10組様限定となります。  
tel:03-3814-3591 e-mail:info@rizhong.org 担当：鈴木、渡辺

## ○講座のご案内

日中学院では、この夏多くの短期講座を開講します。皆様のご参加お待ちしております！

詳しい内容や受講料などは、チラシをご覧ください。

### ①1日集中講座 7月5日(日)

- ・中国語入門
- ・発音ステップアップ
- ・1日で文法レベルアップ
- ・今の中国を聴く
- ・スピーチに挑戦！

### ②特別公開講座 7月25日(土) 「言葉と人生のつながり」

講師：夏瑛

中国教育部派遣職員

日中友好会館 留学生事業部部长

日本語や日本文化を学習する事で、より人生が豊かになったと語る夏瑛氏。体験に基づいたお話を伺います。

### ③夏期集中講座

8月4日(火)～8日(土)

- ・中国語入門・中国語音読 講座など